公開実用 昭和56-141571

402K



· 4 ,000円。

実用新案登錄願

昭和 年 月 55 3 24

子案の名称 回転電気機械の保護装置

老 案 者

· ** 茨城県勝田市大学高場2520番地 日立製作所 佐和工場内 株式会社

紧 議 茂 (13 h 4

実用新案登録出願人

:〒100:東京都千代田区丸の内一丁目5番1号

-510 株式会社 日 立 製 作 所

吉 山 博

代 理 人

> 〒100 東京都千代田区丸の内一丁目5番1号 株式会社 日立 製作所 電話東京 435-4221 (大代表)

Æ 6189: 弁理 比高 樜 明 添附書類の目録 ,İŞ 1 6

Ĥ. 1 4 2.5

医砂二基形物的 存铁物研究



前記以外の考案者, 実用新案登録出願人または代理人

打 7; 案 · 茨城県勝田市大字高場2520番地 日立製作所 株式会社 ٢, Ÿ, 所 同 仹 氏 名 所 茨城県日立市幸町3丁月1番1号 住 日立製作所 ヒタチケンキュウンますり日立研究所内 株式会社 氏 名 住 所 同 す夫 氏 名



考案の名称 回転電気機械の保護装置 実用新案登録請求の範囲

1.刷子保持器の整流子あるいはスリップリング と反対側に刷子と金属板を介して接するように 感熱体を取り付けたことを特徴とする回転電気 機械の保護装置。

考案の詳細な説明

回転電気機械を運転する場合の保護装置としては、発熱部分に感熱体を管き、許容温度以上になったことを検出して機械の温度を下げるようにしている。そのため固定子の巻線に感熱体を接触させてその役目を果しているものは知られている。

また、熱時定数が小さく、温度の非常に速く起る温度変化を検出出来る方法として実用新案公報昭37-12306 に小さい熱時定数の感熱体を、刷子保持器の整流子あるいはスリップリングに向いた端に、狭い熱接触で取り付ける方法が示されている。刷子保持器に感熱体を取り付ける方法は、他の固定子巻線に設ける方法よりも、検出温度に

(1)

1415-71

公開実用 昭和56-141571

遅れが少く、急敵な温度上昇に対する保護には適している。しかし、実用新案公報昭37-12306の様に整流子あるいはスリップリングに向いた端につけることは、特に小形の機械においてはスペース的に難しい場合がある。特に感熱体が大きい場合、例えばバイメタルを使用したりする場合には小形の機械では無理となる。

本案は、整流子またはスリップリングと反対側 に感熱体を設けることによつて小形の機械でも比較的大きな感熱体を取付出来るようにしたもので ある。

本案の実施例を第1図,第2図および第3図, 第4図によつて説明する。

1のケーシングの一部に、刷子保持器 2 と当て板 3 を絶縁物 4 と 絶縁物 5 を介してボルト 6 で固定してある。当て板 3 には、感熱体としてバイメタル 7 が接しており、バイメタル 7 は固定するためのバンド 8 の両サイドが絶縁物 5 に設けられた番 9 に嵌まる位置で、絶縁物 5 と当て板 3 とにはさまれた形で固定される。

20

バンド8には、多少バネアクションがあるため 絶縁物5の溝9の深さ寸法のバラツキによつてバ イメタル7と当て板3との密着性は失われること は無い。

バイメタル端子10.11は、整流子12の方向と逆の方に向いているために接続されたリード線が回転体に接触する危険性が少くたる。またスペース的にも充分あり、刷子保持器2の側面に固定する場合のように絶縁物4による干渉も無い。

さらに、本案では、バイメタル7と当て板3の接触に接着剤を使用しないため、高温にさらされても、剝離する等の心配も無い。

本案によれば、温度上昇検出に際して遅れが少なく、感熱体の大きなものも固定出来る大きな利点を有する。

1.

図面の簡単な説明

第1図は、本案の実施例の斜視図、第2図は、 本案の実施例の断面図、第3図は、バイメタルの 斜視図、第4図は絶縁物の斜視図である。

1 … ケーシング、2 …刷子保持器、3 …当て板、

公開実用 昭和56-141571

4…絶縁物、5…絶縁物、6…ポルト、7…バイ メタル、8…バンド、9…溝、10…バイメタル 端子、11…バイメタル端子、12…整流子。

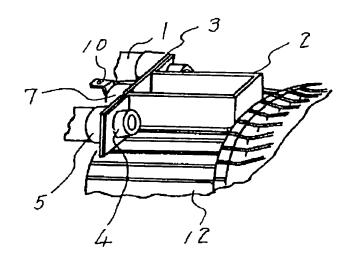
代理人 弁理士 高橋明夫

10

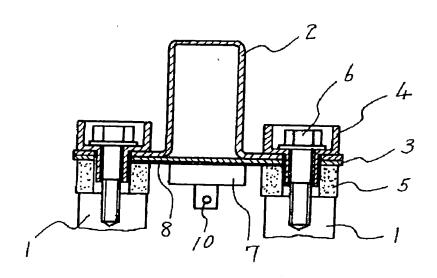
15

20

第 / 図



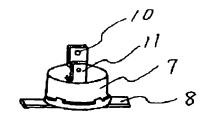
第2回



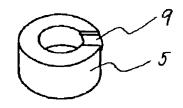
141571 / 代理人 高 橋 明 夫

公開実用 昭和56— 141571

第3図



第4四



1415712/2